

抗菌薬意識調査レポート 2023

2023年9月25日

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター（厚生労働省委託事業）

■ 一般国民の抗菌薬(抗生物質)に関する認知は上昇しておらず、知識は不十分である

- ・「抗菌薬・抗生物質」という言葉を聞いたことがあると回答した人は80.9%であった。
2021年からほぼ変わらない結果となった。
- ・「抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は14.7%であった。
- ・「抗菌薬・抗生物質はかぜに効く」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は23.0%であった。
- ・「抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は30.4%であった。

■ 抗菌薬の不適切な使用は減少している可能性がある

- ・「家にとってある抗菌薬・抗生物質がある」と回答した人は15.9%であった。
昨年より11.5ポイント減少した。
- ・「とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」と回答した人は17.5%であった。
昨年より8.0ポイント減少した。
- ・「他人(家族など)の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある」と回答した人は10.4%であった。
- ・「とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」人の割合は、15歳以下の子どもがいる人は32.5%、いない人では15.1%、「他人(家族など)の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある」人の割合は、15歳以下の子どもがいる人は22.1%、いない人は8.6%であった。
- ・「とっておいた抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある」と回答した人は6.7%であった。
昨年より2.2ポイント減少した。
- ・「処方された抗菌薬・抗生物質を最後まで飲みきった」と回答した人は70.3%であった。

■ 一般国民の薬剤耐性・薬剤耐性菌に関する認知は低い

- ・薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知ったことがあると答えた人は35.4%。
- ・「薬剤耐性とは病気の原因となる細菌が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである」に対して「正しいと思う」と正しく回答した人は74.2%であった。
- ・「薬剤耐性とは病気になった人の体質が変化して抗菌薬が効きにくくなる」のは間違いと正しく回答した人は35.5%であった。

■ 基本的な感染症対策を行う人は昨年より減少も高水準を維持

- ・「発熱等の症状で学校や職場を休む」と回答した人は56.6%であった。
コロナ禍以前の2019年から19.5ポイント増加しているが、昨年よりは3.4ポイント減少した。
また「休みたいが休めない」人は昨年よりも2.6ポイント減少し、20.4%となった。
- ・「咳エチケット」、「こまめな手洗い」を「必ず行っている」「できるだけ行っている」と回答した人はそれぞれ71.8%、75.3%であった。

■ 診療・服薬指導に関するオンライン化は現時点での認知は低い

オンライン服薬指導は将来的に処方薬に対する知識の向上の可能性も

- ・オンライン診療を「利用したことがある」人は3.7%であった。
- ・オンライン服薬指導を「利用したことがある」人は2.0%であった。
- ・オンライン服薬指導を「利用したい」、「やや利用したい」と回答した人の合計は38.4%であった。
また、その理由に関しては「周りの目を気にせず質問できる」といった回答があった。

調査目的

感染症治療に必要な抗菌薬・抗生物質が効かない薬剤耐性(AMR)の問題が世界中で深刻化しています。日本でも2016年に「薬剤耐性(AMR)アクションプラン」が発表され、薬剤耐性についての取り組みが始まっています。薬剤耐性の問題は抗菌薬・抗生物質の不適切な使用が一因とされています。今回の調査は、抗菌薬・抗生物質、および薬剤耐性とは何かについて、現在一般の方がどのように認識されているのかを把握し、問題点と今後の取り組みの方向性を提示することを目的としています。

調査概要

調査期間：2023年9月

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国の15歳以上の男女 全国700名

男性10代50名、20代50名、30代50名、40代50名、50代50名、60代50名、70代50名

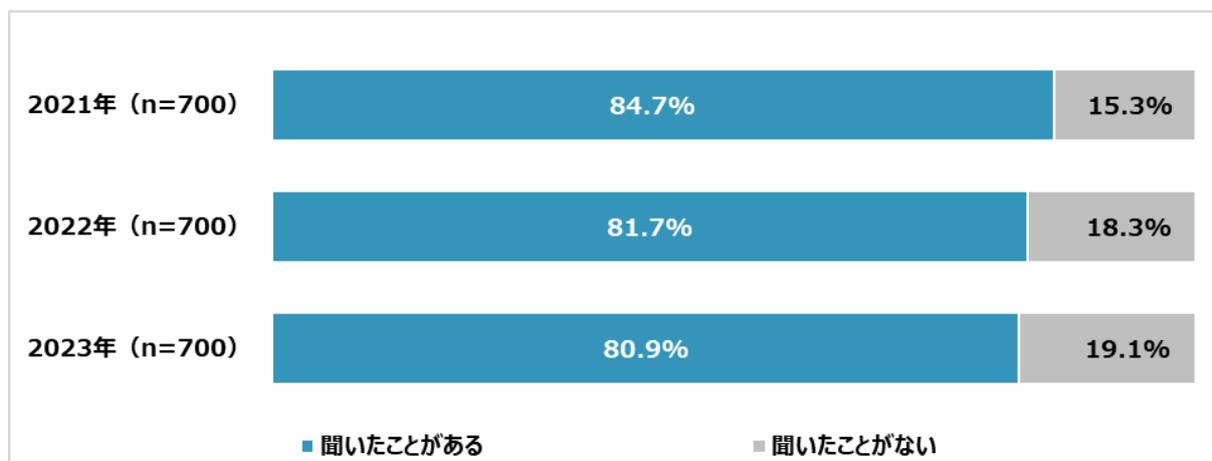
女性10代50名、20代50名、30代50名、40代50名、50代50名、60代50名、70代50名

設問一覧

- Q1 あなたは抗菌薬・抗生物質という言葉を知っていますか(単数回答、n=700)
- Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください
- Q2-1 抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける(単数回答、n=566)
- Q2-2 抗菌薬・抗生物質はかぜに効く(単数回答、n=566)
- Q2-3 抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい(単数回答、n=566)
- Q2-4 抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる(単数回答、n=566)
- Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください
- Q3-1 家にとってある抗菌薬・抗生物質がある(単数回答、n=566)
- Q3-2 とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある(単数回答、n=566)
- Q3-3 他人(家族など)の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある(単数回答、n=566)
- Q3-4 抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある(単数回答、n=566)
- Q4 抗菌薬・抗生物質が有効な病気として当てはまると思うものをすべてお答えください(複数回答、n=700)
- Q5 あなたは薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っていますか(単数回答、n=700)
- Q6 薬剤耐性・薬剤耐性菌についてあなたが当てはまると思うものをお選びください
- Q6-1 薬剤耐性とは病気の原因となる細菌が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである(単数回答、n=248)
- Q6-2 薬剤耐性とは病気になった人の体質が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである(単数回答、n=248)
- Q6-3 薬剤耐性のために感染症が治りにくくなることもある(単数回答、n=248)
- Q6-4 薬剤耐性は、感染症以外の様々な医療にも影響を与える(単数回答、n=248)
- Q7 あなたは薬剤耐性菌の感染症についてどう思いますか(単数回答、n=248)
- Q8 あなた自身や身近な人が近い将来(数年以内に)薬剤耐性菌の感染症(肺炎、尿路感染症など)にかかると思いますか(単数回答、n=248)
- Q9 例えば今朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37℃でしたあなたは学校や職場を休みますか(単数回答、n=700)
- Q10 あなたが抗菌薬・抗生物質を処方された際の行動についてお答えください(単数回答、n=303)
- Q11 あなたは「オンライン診療」を知っているかお答えください(単数回答、n=700)
- Q12 あなたは「オンライン服薬指導」を知っているかお答えください(単数回答、n=700)
- Q13 あなたは「オンライン服薬指導」を利用してみたいかお答えください(単数回答、n=700)
- Q14 今後の感染症予防対策として、あなたが続けようと思っていることをお答えください(単数回答、n=700)

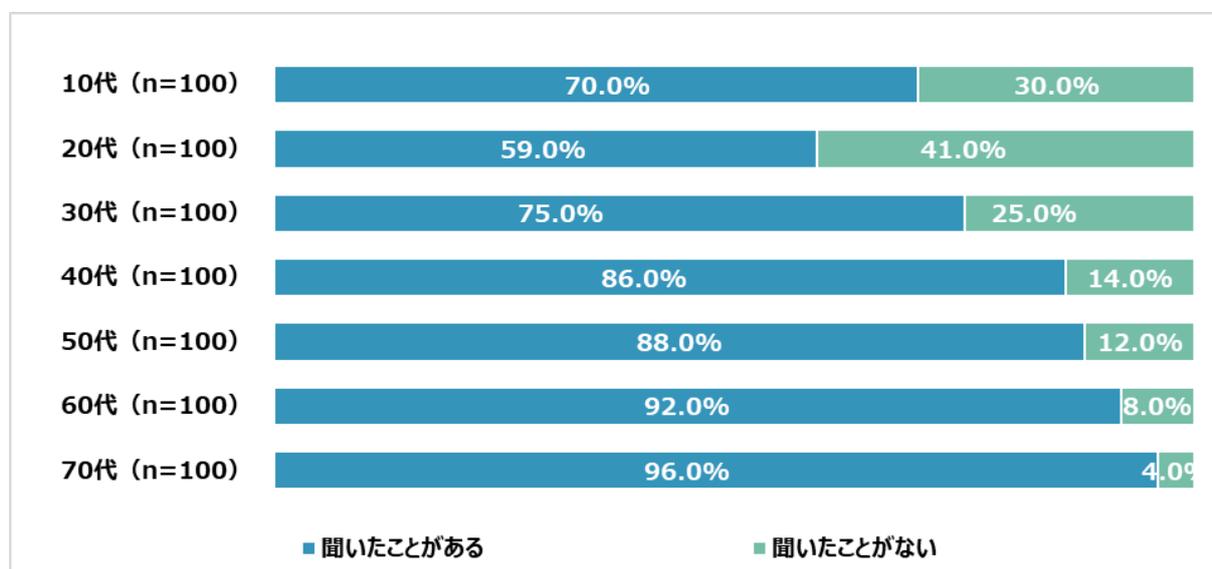
Q1 あなたは抗菌薬・抗生物質という言葉を知っていますか

(単数回答、n=700)



抗菌薬・抗生物質という言葉を知っている」と答えた人は80.9%であった。「聞いたことがない」と答えたのは19.1%となった。2021年からほぼ変わっていない。

【年代別】

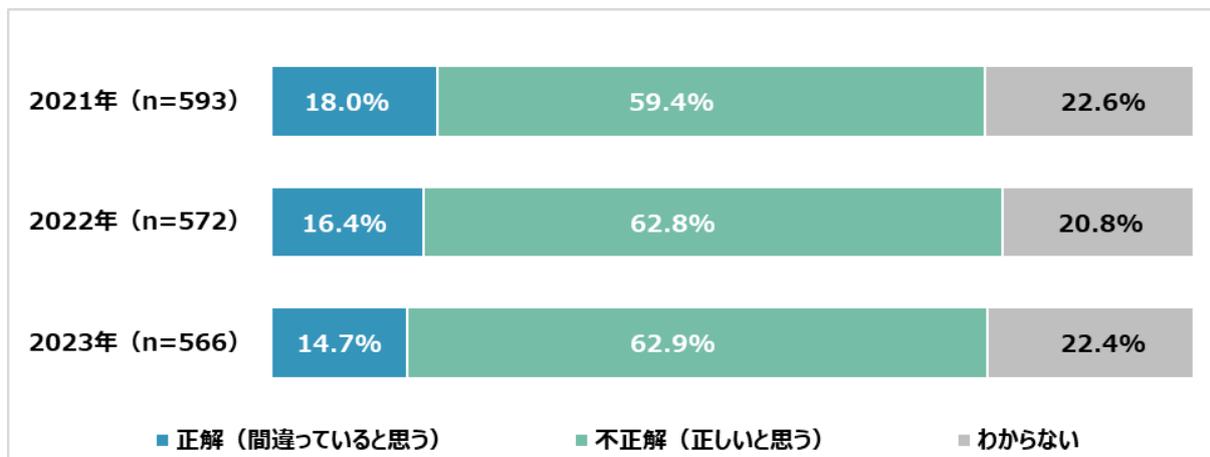


年代別で比較をすると、20代の認知率が最も低く59.0%、次いで10代で70.0%という結果となった。

Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

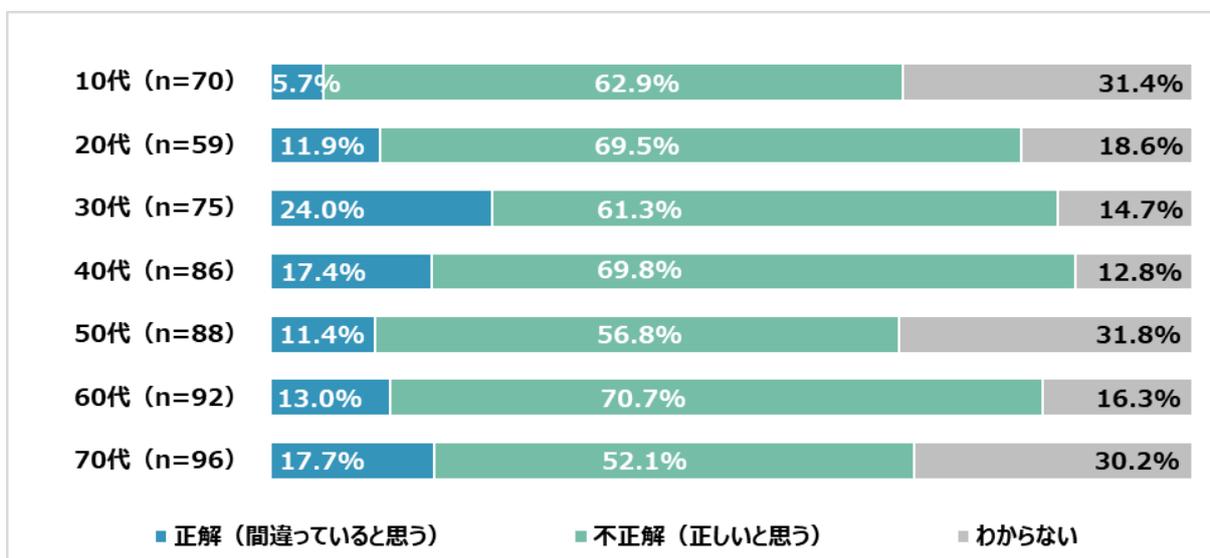
Q2-1 抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける

(単数回答、n=566)



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した566人のうち、「抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は14.7%、「正しいと思う」と回答した不正解の人は62.9%であった。2021年から大きな変化はない。

【年代別】

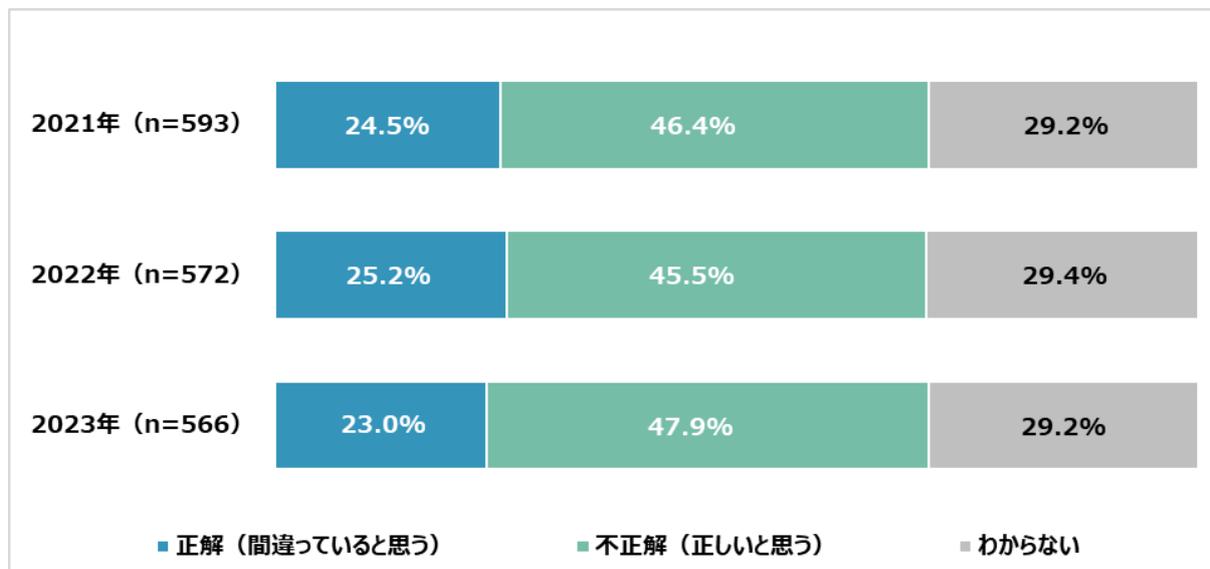


年代別で比較をすると、10代の正解者は5.7%と正解率が最も低く、30代の正解者は24.0%と正解率が最も高い結果となった。

Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

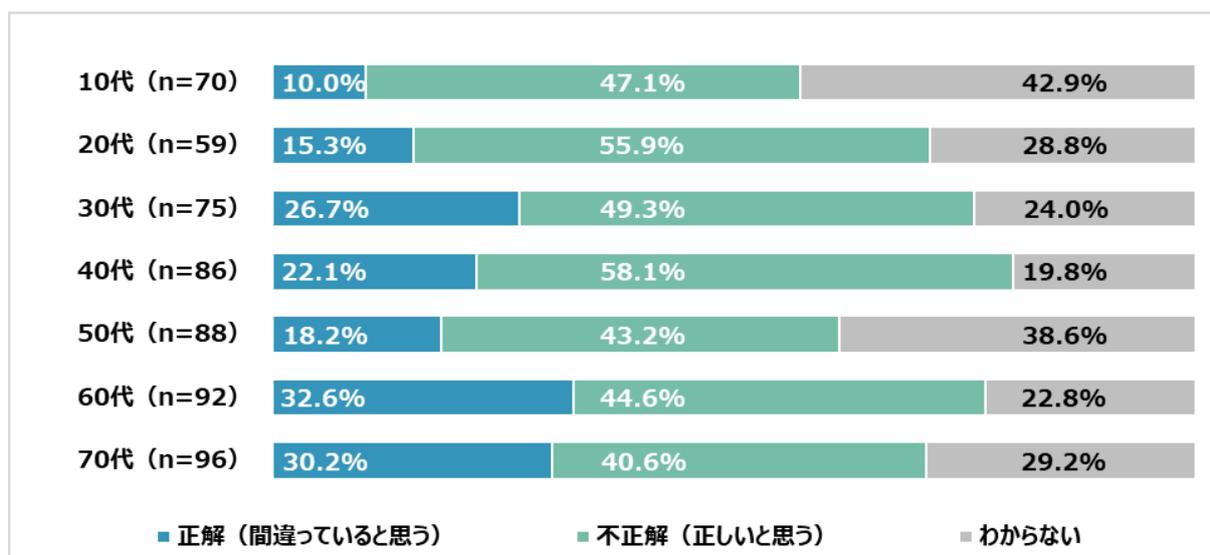
Q2-2 抗菌薬・抗生物質はかぜに効く

(単数回答、n=566)



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した566人のうち、「抗菌薬・抗生物質はかぜに効く」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は23.0%、「正しいと思う」と回答した不正解の人は47.9%であった。直近3年間で比較しても大きな差はなかった。

【年代別】

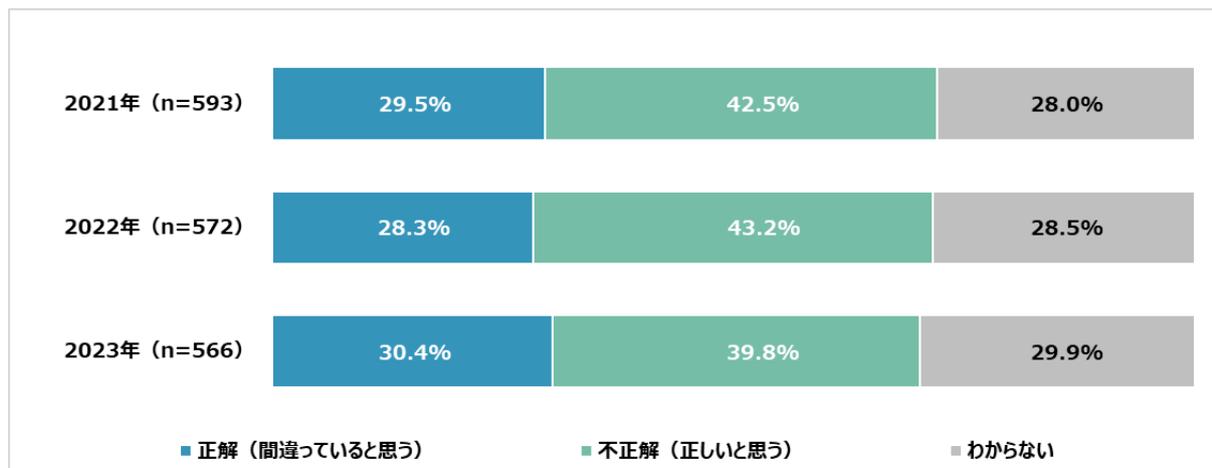


年代別で比較をすると、10代、20代の順で正解率が低くそれぞれ10.0%、15.3%という結果となり、60代、70代の正解率が高くそれぞれ32.6%、30.2%という結果となった。

Q2 抗菌薬・抗生物質についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

Q2-3 抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい

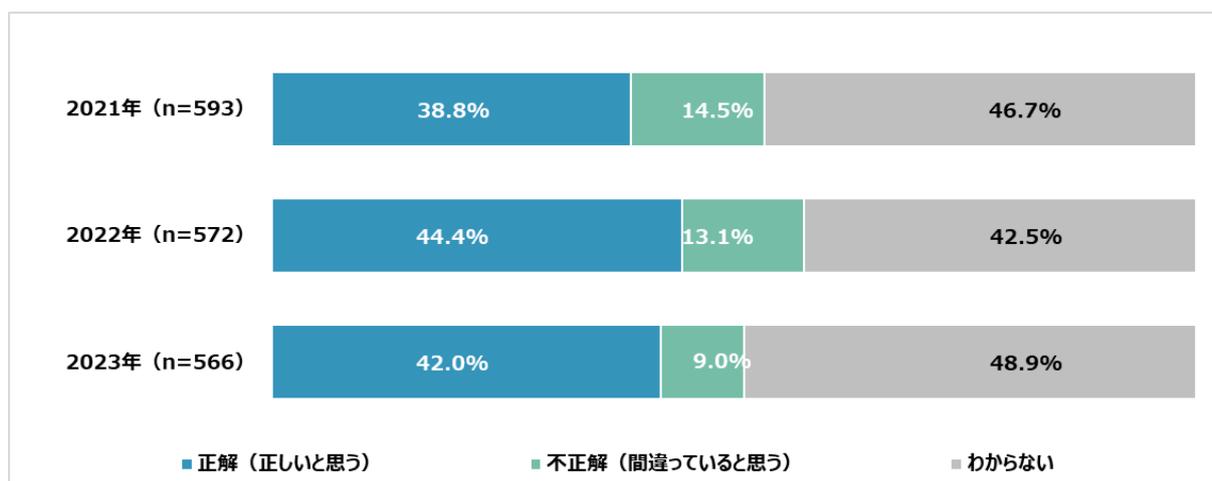
(単数回答、n=566)



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は30.4%であった。2022年に比べ正解率はほぼ変化がない。

Q2-4 抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる

(単数回答、n=566)

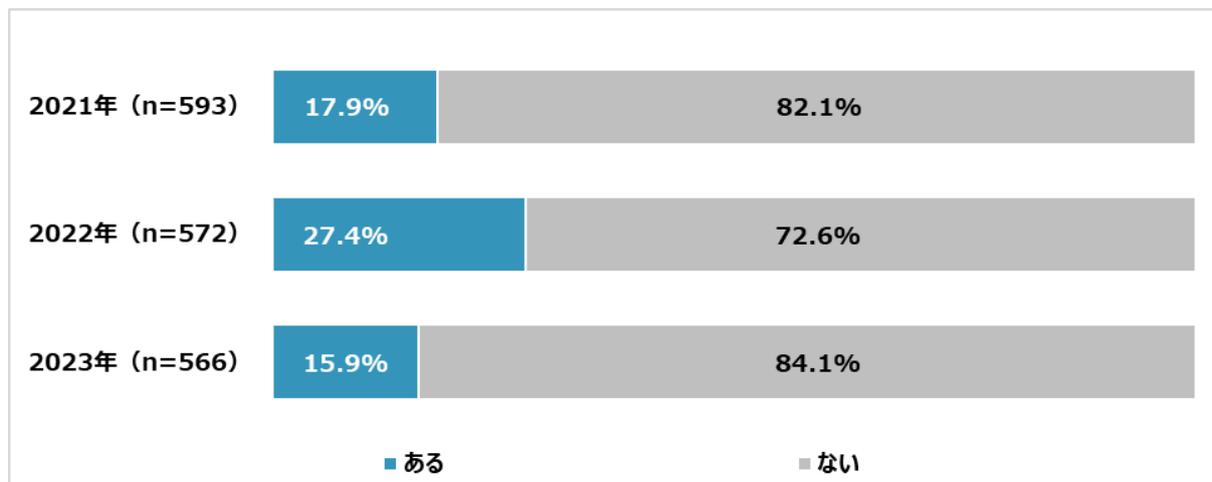


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる」に対して「正しいと思う」と正しく回答した人は42.0%であった。

Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください

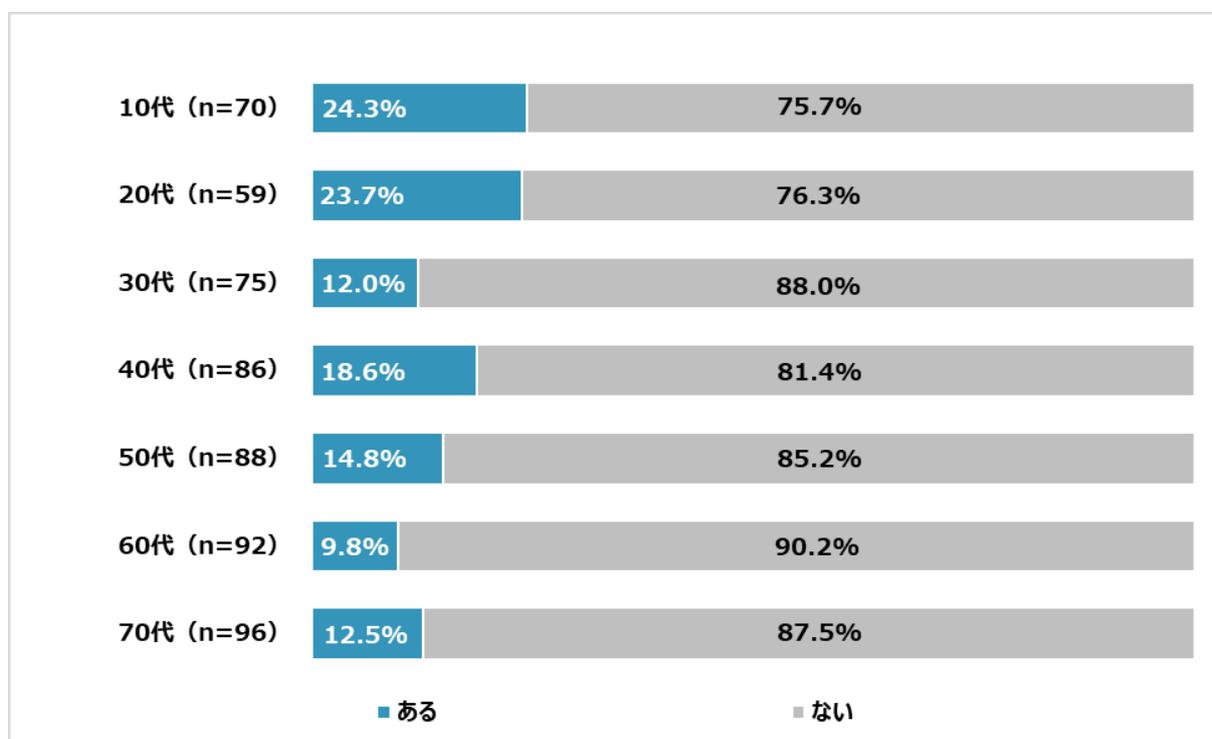
Q3-1 家にとってある抗菌薬・抗生物質がある

(単数回答、n=566)



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「家にとってある抗菌薬・抗生物質があるか」に対して「ある」と回答した人は15.9%と昨年より11.5ポイント減少した。また、「ない」と回答した人は84.1%であった。

【年代別】

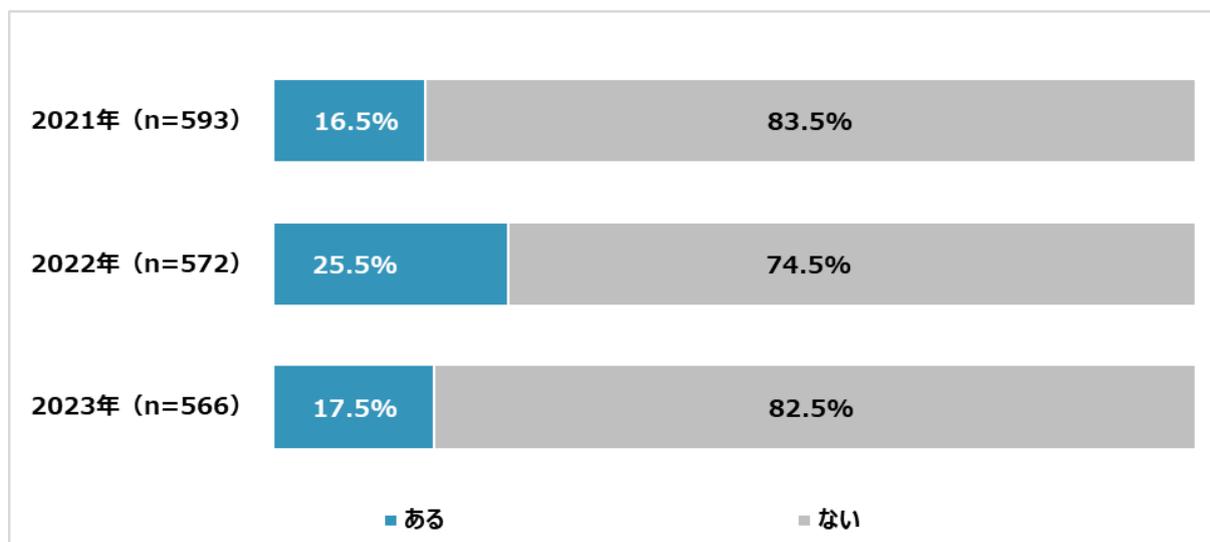


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「家にとってある抗菌薬・抗生物質があるか」に対して年代別で比較をすると、10代は24.3%、20代は23.7%と若年層の方が高い数値となっている。

Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください

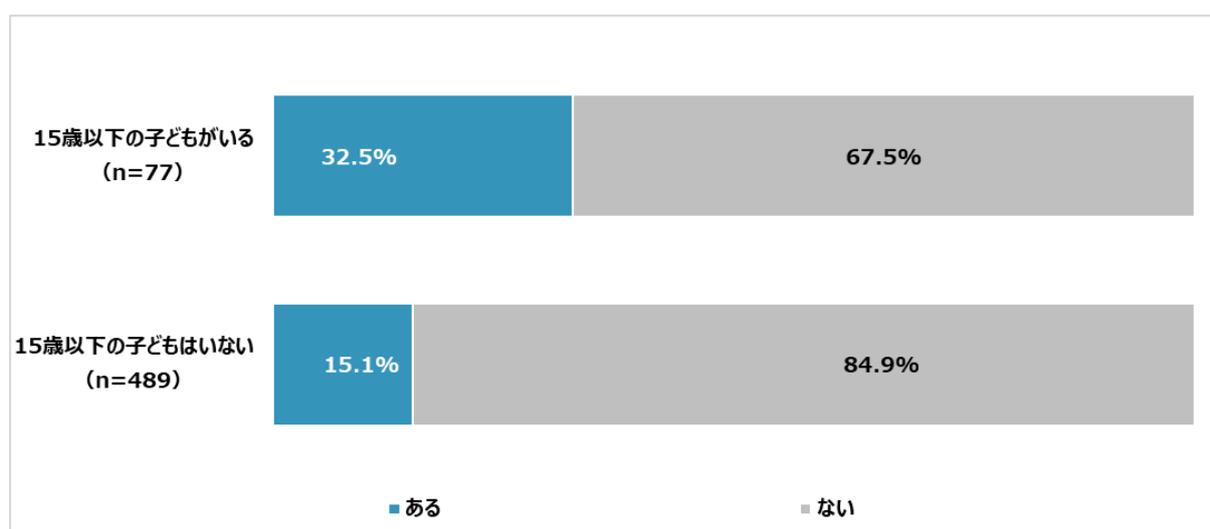
Q3-2とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある

(単数回答、n=566)



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」に対して「ある」と回答した人は17.5%であった。昨年より8.0ポイント減少している結果となった。

【15歳以下の子どもの有無別】

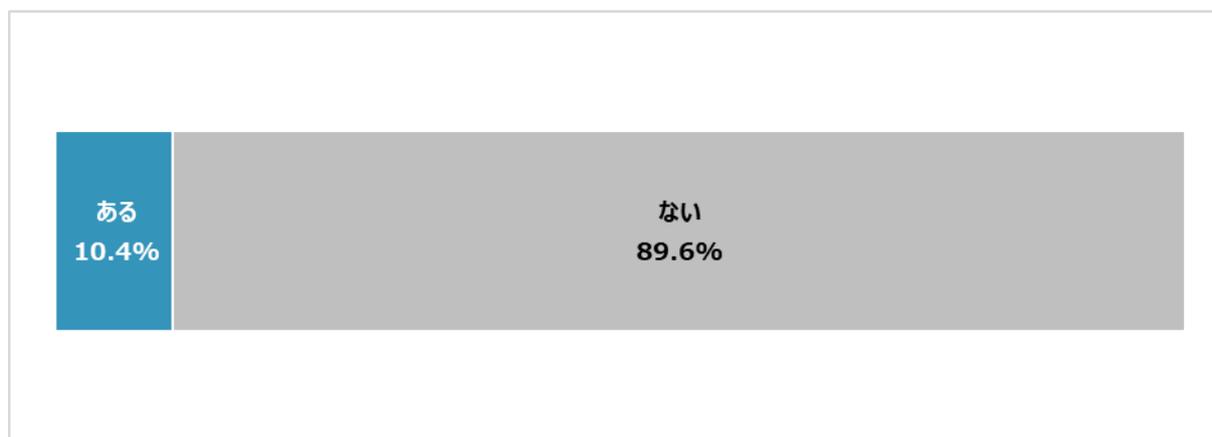


「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「とっておいた抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある」のは15歳以下の子どもがいる方は32.5%だったのに対し、15歳以下の子どもはいない方は15.1%と2倍以上の差がある結果となった。

Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください

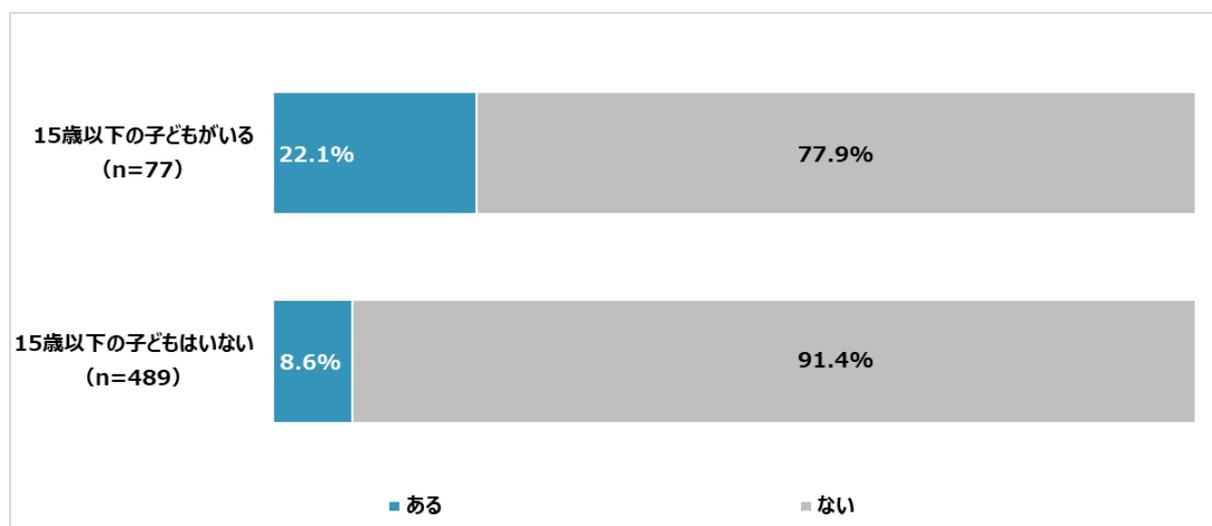
Q3-3 他人（家族など）の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある

(単数回答、n=566)



「抗菌薬・抗生物質という言葉を知ったことがある(Q1)」と回答した人のうち、「他人(家族など)の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある」人は10.4%であった。

【15歳以下の子どもの有無別】

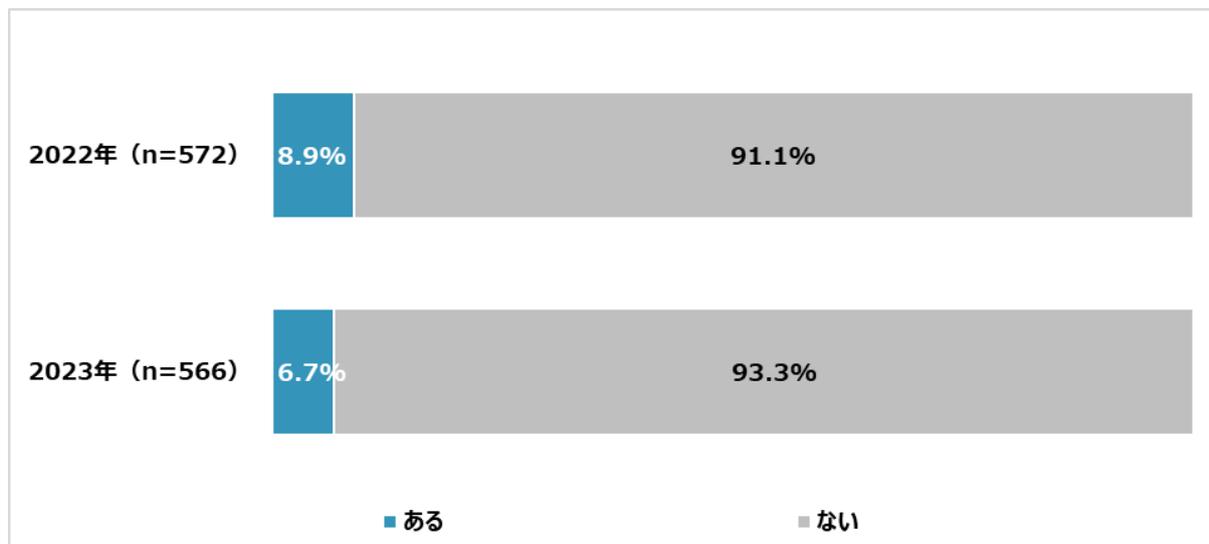


「抗菌薬・抗生物質という言葉を知ったことがある(Q1)」と回答した人のうち、「とっておいた抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある」かどうかを15歳以下の子どもの有無で比較すると、「ある」と回答した人は15歳以下の子供がいる人で22.1%、15歳以下の子供はいない人で8.6%と13.5ポイントの差がある結果となった。

Q3 抗菌薬・抗生物質に関する経験についてお答えください

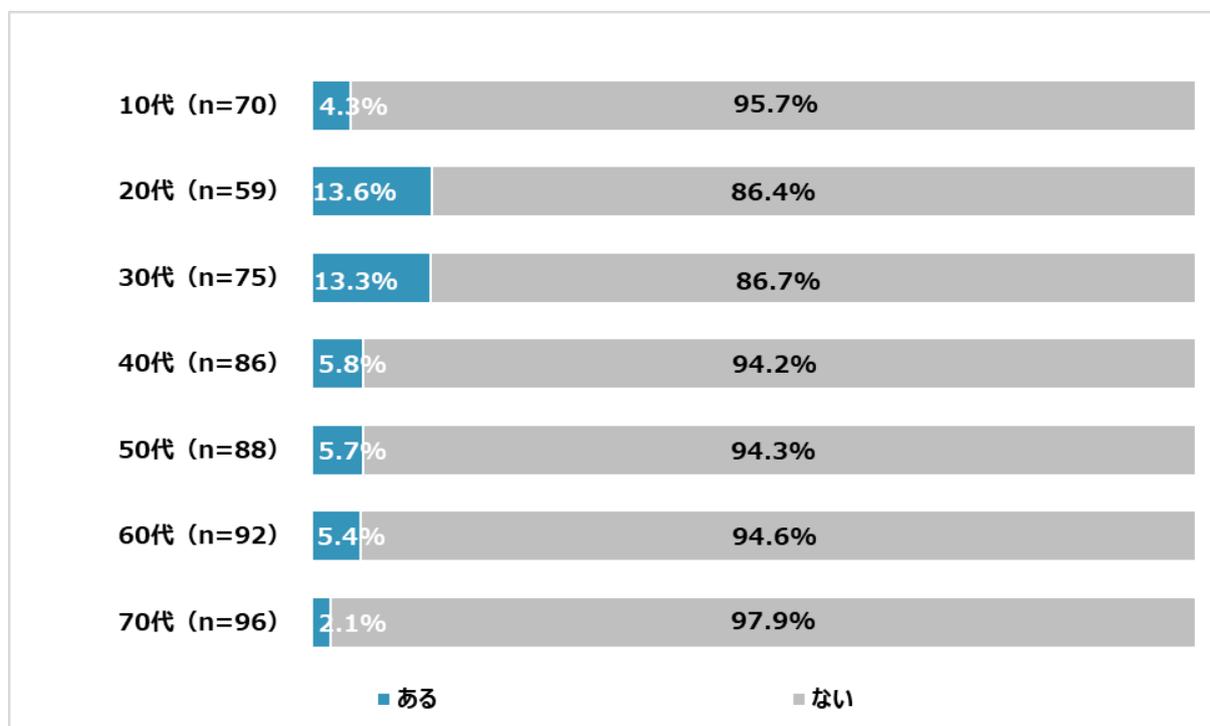
Q3-4 抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある

(単数回答、n=566)



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「とっておいた抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある」人は6.7%で、昨年とほぼ変わらなかった。

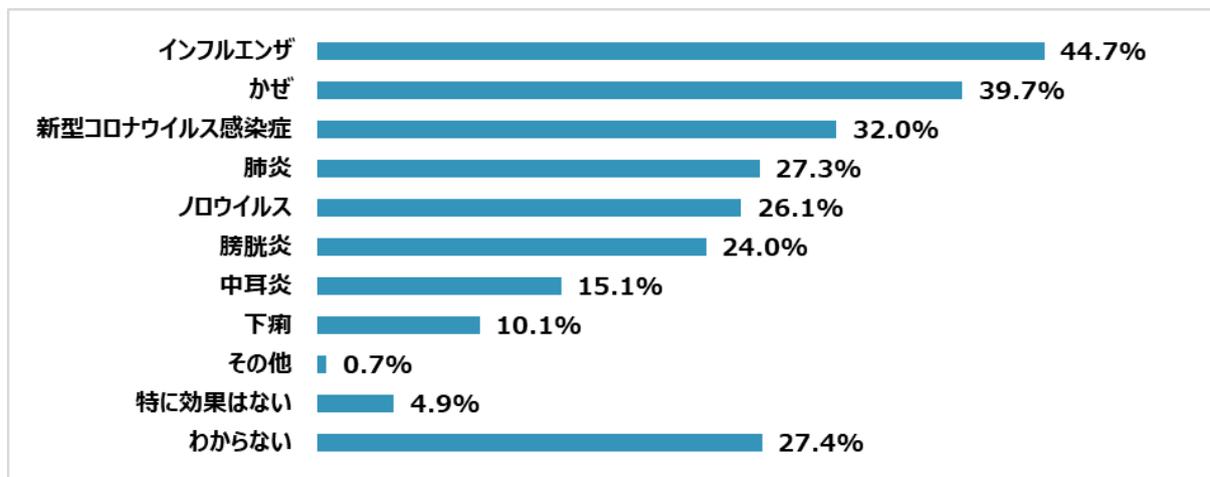
【年代別】



「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがある(Q1)」と回答した人のうち、「とっておいた抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある」に対して年代別で比較をすると、20代、30代が高くそれぞれ13.6%、13.3%という結果となった。

Q4 抗菌薬・抗生物質が有効な病気としてあてはまると思うものをすべてお答えください

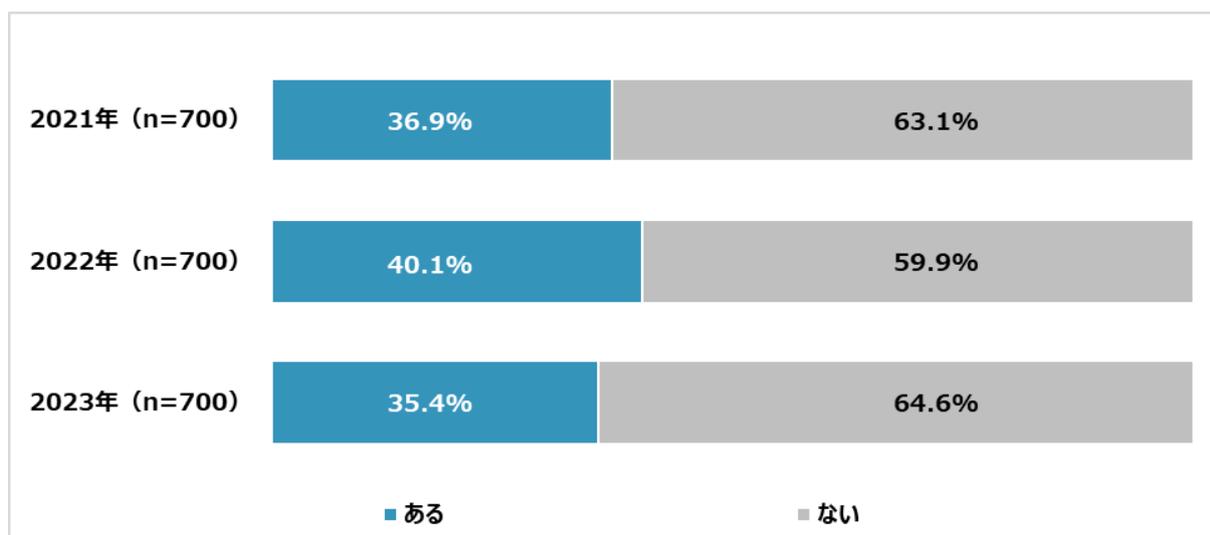
(複数回答、n=700)



抗菌薬・抗生物質が有効な病気としてあてはまると思うものを聞くと、「インフルエンザ」が最も多く44.7%が回答した。次いで、「かぜ」39.7%、「新型コロナウイルス感染症」32.0%であった。

Q5 あなたは薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っていますか

(単数回答、n=700)



薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っている人と答えた人は35.4%、「知らない」と答えた人は64.6%であった。昨年より4.7ポイント減少し、2021年と同程度となった。

Q6 薬剤耐性・薬剤耐性菌についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

**Q6-1 薬剤耐性とは病気の原因となる細菌が変化して
抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである**

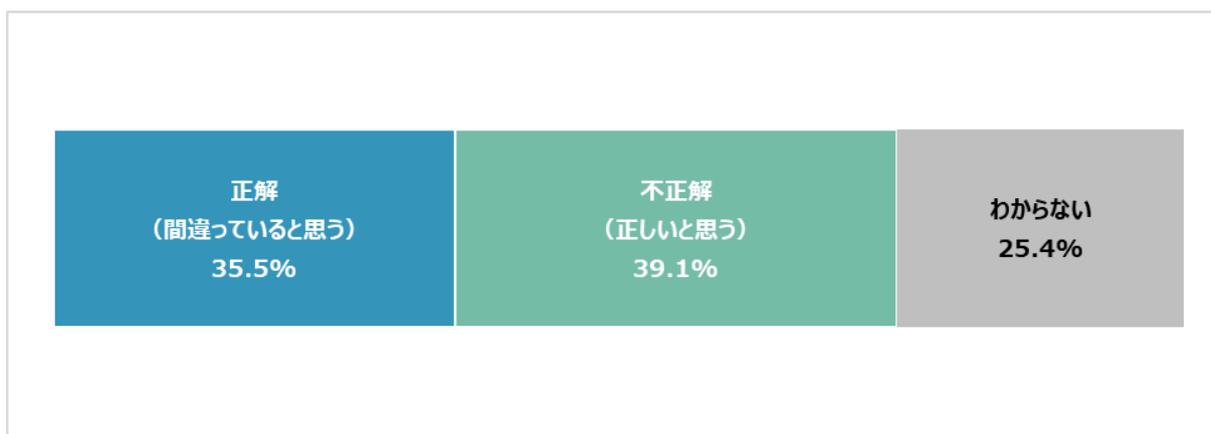
(単数回答、n=248)



「薬剤耐性・薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある(Q5)」と回答した248人のうち、「薬剤耐性とは病気の原因となる細菌が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである」に対して「正しいと思う」と正しく回答した人は74.2%、「間違っていると思う」と回答した不正解の人は8.1%であった。

**Q6-2 薬剤耐性とは病気になった人の体質が変化して
抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである**

(単数回答、n=248)

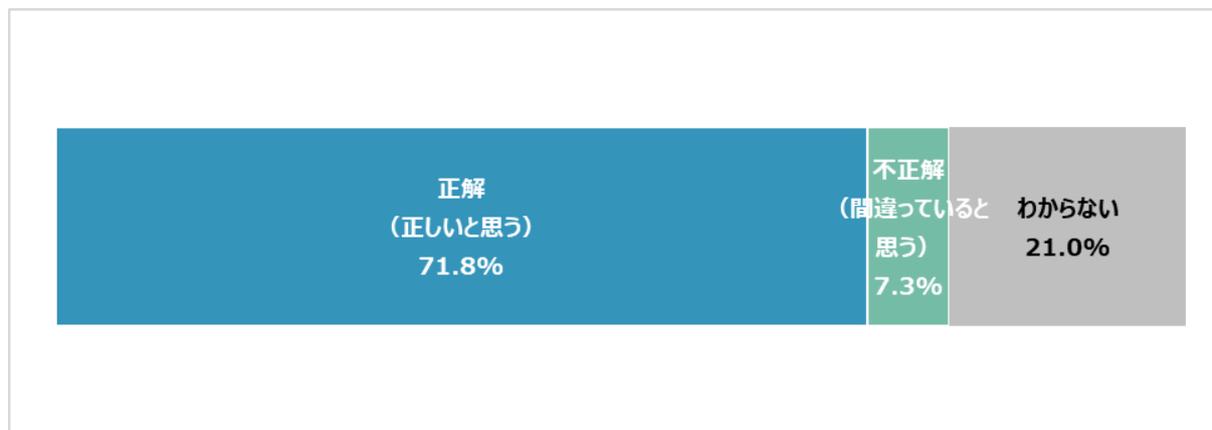


「薬剤耐性・薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある(Q5)」と回答した248人のうち、「薬剤耐性とは病気になった人の体質が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである」に対して「間違っていると思う」と正しく回答した人は35.5%、「正しいと思う」と回答した不正解の人は39.1%であった。

Q6 薬剤耐性・薬剤耐性菌についてあなたが当てはまると思うものをお選びください

Q6-3 薬剤耐性のために感染症が治りにくくなることもある

(単数回答、n=248)



「薬剤耐性・薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある(Q5)」と回答した248人のうち、「薬剤耐性のために感染症が治りにくくなることもある」に対して「正しいと思う」と正しく回答した人は71.8%、「間違っていると思う」と回答した不正解の人は7.3%であった。

Q6-4 薬剤耐性は、感染症以外の様々な医療にも影響を与える

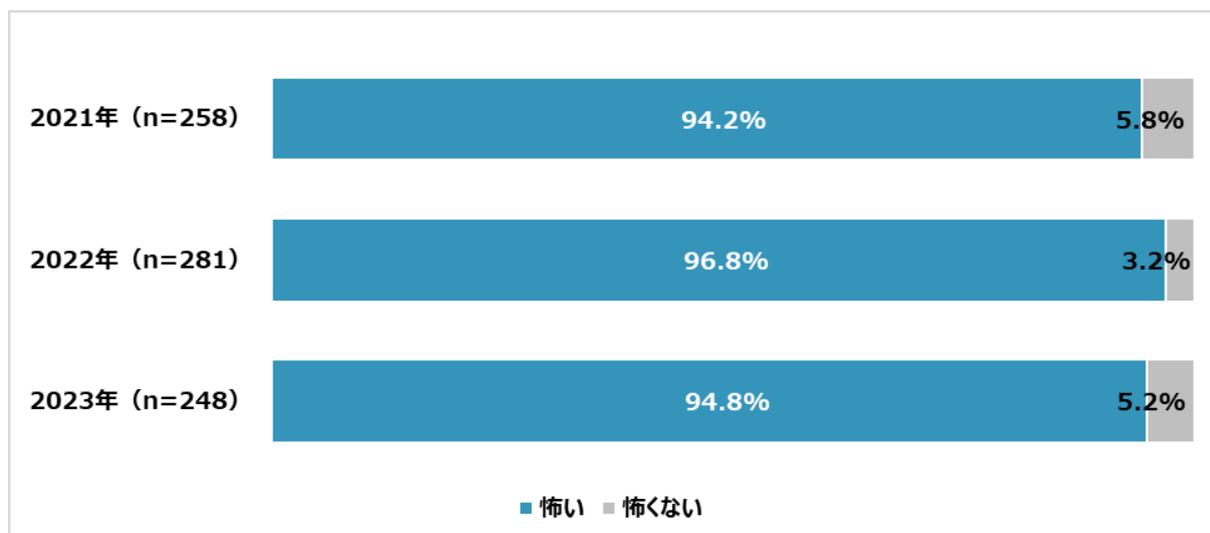
(単数回答、n=248)



「薬剤耐性・薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある(Q5)」と回答した248人のうち、「薬剤耐性は、感染症以外の様々な医療にも影響を与える」に対して「正しいと思う」と正しく回答した人は65.3%、「間違っていると思う」と回答した不正解の人は5.6%であった。

Q7 あなたは薬剤耐性菌の感染症についてどう思いますか

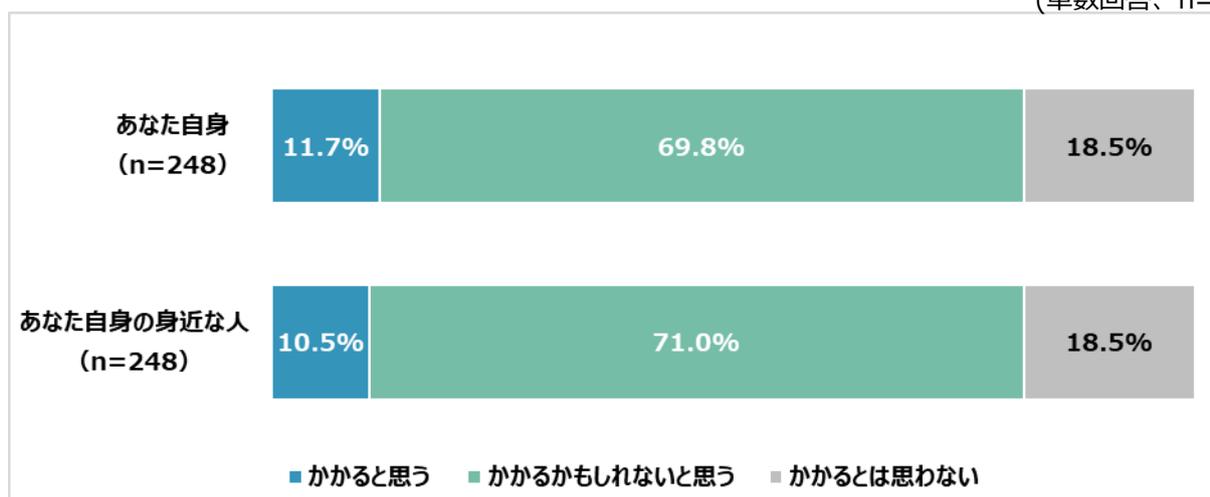
(単数回答、n=248)



「薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある(Q5)」と回答した人のうち、「薬剤耐性菌の感染症についてどう思いますか」に対して「怖い」と回答した人は94.8%、「怖くない」と回答した人は5.2%となった。2021年、2022年との大きな差はない結果になった。

Q8 あなた自身や身近な人が近い将来(数年以内に)薬剤耐性菌の感染症(肺炎、尿路感染症など)にかかると思いますか

(単数回答、n=248)

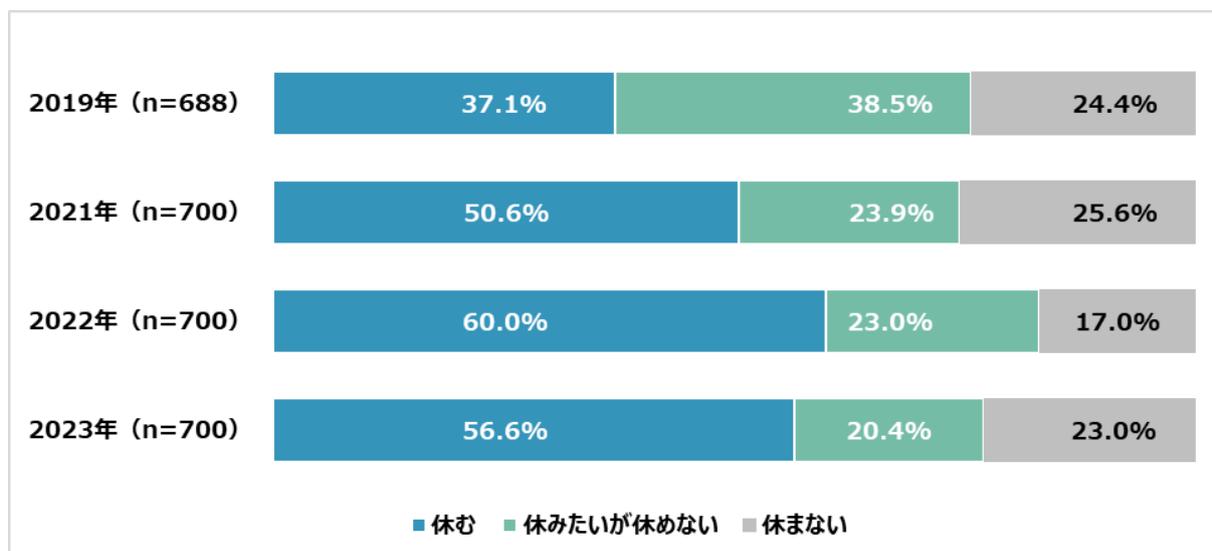


「薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉聞いたことがある(Q5)」と回答した人のうち、「あなた自身や身近な人が近い将来(数年以内に)薬剤耐性の感染症にかかると思いますか」に対して、自身に関しては、「かかるかもしれないと思う」と回答した人が69.8%で最も高い。「かかると思う」、「かかるかもしれないと思う」とあわせると81.5%だった。あなた自身の身近な人に対しては、「かかるかもしれないと思う」と回答した人が71.0%で最も高く、「かかると思う」、「かかるかもしれないと思う」とあわせると81.5%だった。

Q9

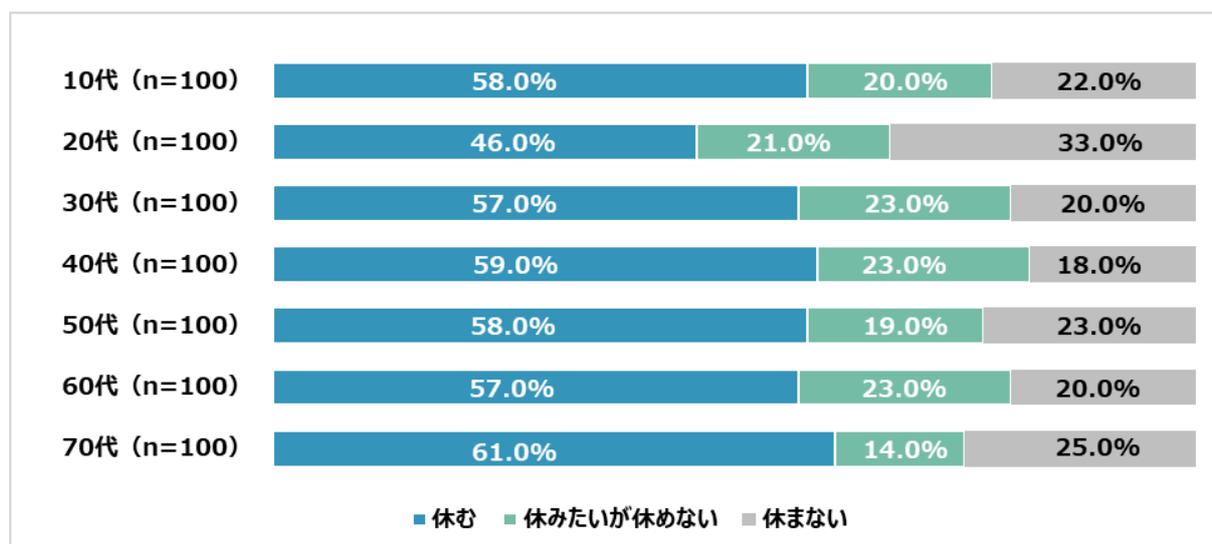
例えば今朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37℃でしたあなたは学校や職場を休みますか

(単数回答、n=700)



「休む」が56.6%で最も高かった。
「休みたいが休めない」、「休まない」をあわせ43.4%が結果的に「休まない・休めない」と回答した。
今回、「休む」という回答は、2019年からは19.5ポイント増加しているが、
昨年よりは3.4ポイント減少している。

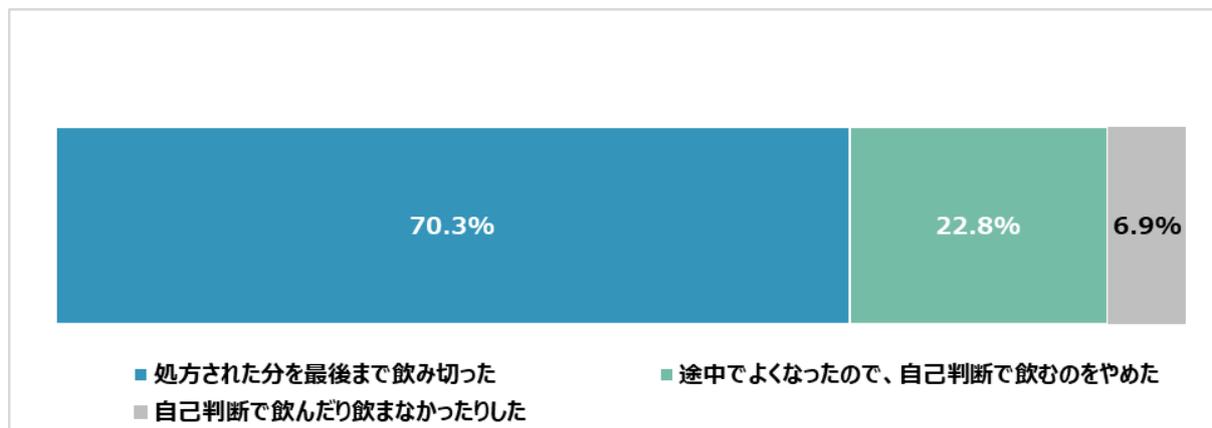
【年代別】



年代別で比較をすると、20代が最も「休む」割合が低く46.0%という結果となった。
その他の年代に関しては「休む」割合は約6割前後という結果となった。

Q10 あなたが抗菌薬・抗生物質を処方された際の行動についてお答えください

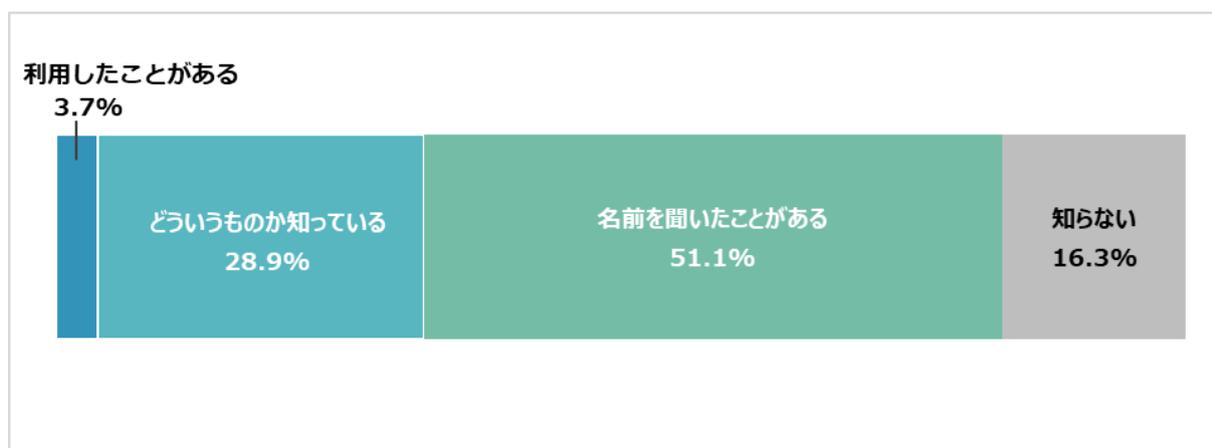
(単数回答、n=303)



直近1年間で、熱・のどの痛み・咳・くしゃみなどの症状が出たときに病院を受診し、抗菌薬・抗生物質を処方された303人に対して、処方された際の行動について聞くと、「処方された分を最後まで飲み切った」と回答した人が最も多く70.3%となった。しかし、「途中でよくなったので、自己判断で飲むのをやめた」22.8%、「自己判断で飲んだり飲まなかったりした」6.9%という人もいた。

Q11 あなたは「オンライン診療」を知っていますか

(単数回答、n=700)

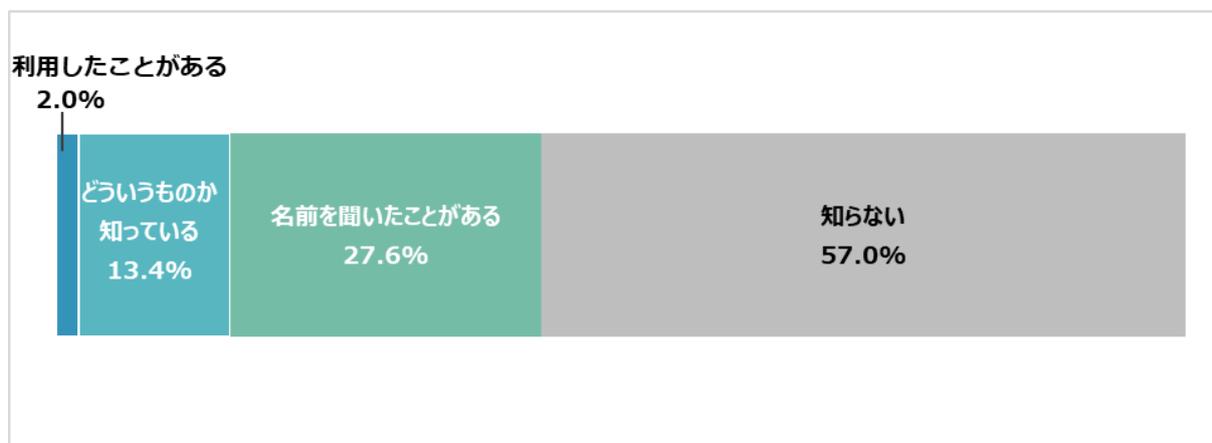


「オンライン診療を知っているか」と聞くと、「利用したことがある」、「利用したことがある」と回答したのは合計32.6%。

また、「名前を聞いたことがある」と回答した方も含めると、認知率は83.7%となった。

Q12 あなたは「オンライン服薬指導」を知っていますか

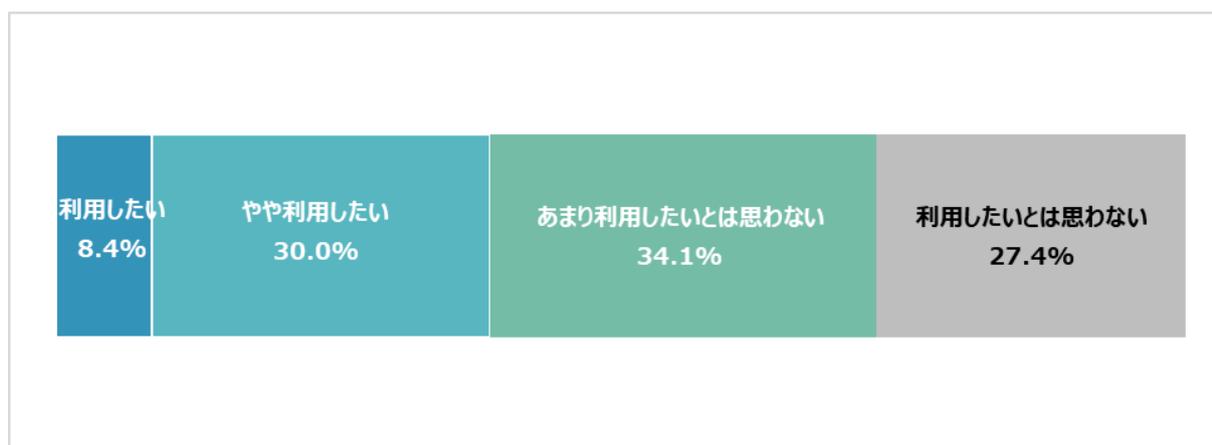
(単数回答、n=700)



「オンライン服薬指導を知っているか」と聞くと、
「利用したことがある」、「名前を聞いたことがある」と回答したのは合計30.0%。
また、「名前を聞いたことがある」と回答した方も含めると、認知率は43.0%となった。

Q13 あなたは「オンライン服薬指導」を利用してみたいですか

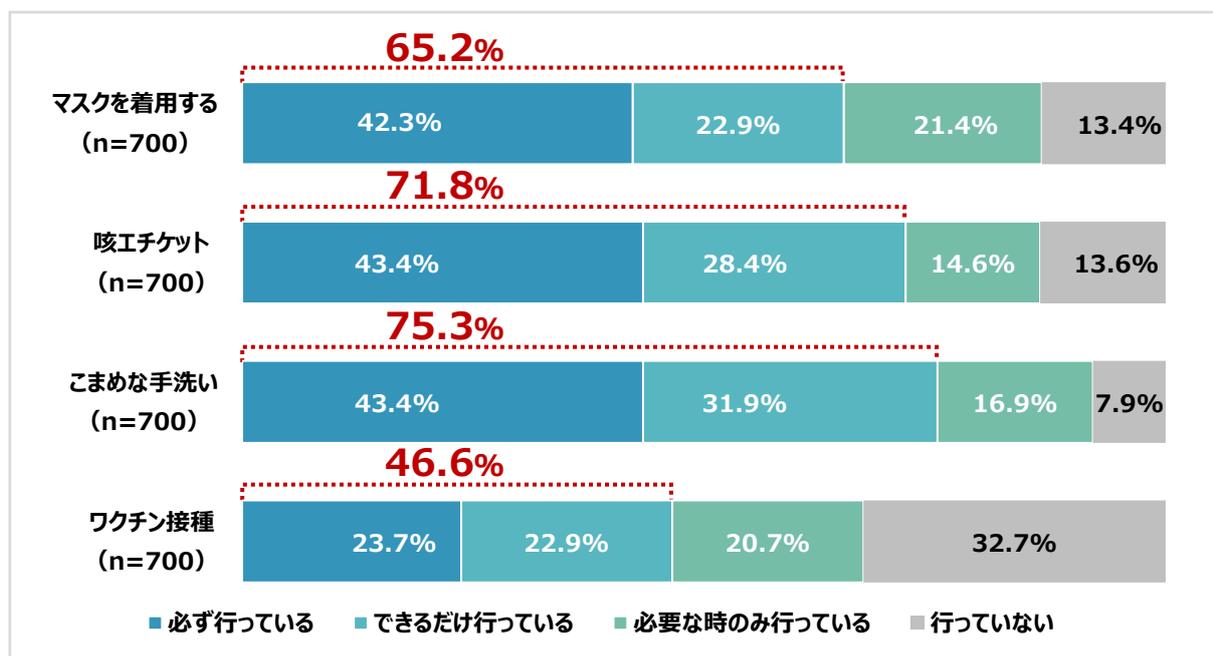
(単数回答、n=700)



「オンライン服薬指導を利用したいか」と聞くと、
「利用したい」、「やや利用したい」と回答したのは合計38.4%であった。
また、その理由を自由回答形式で聞くと、
「周りの目を気にせず質問できる」や「店頭などではじっくり聞くといい雰囲気ではないから」、
「忙しいときに活用しやすい」等の意見があった。

Q14 あなたが感染症予防対策として、行っていることをお答えください

(単数回答、n=700)



現在の感染症予防対策として

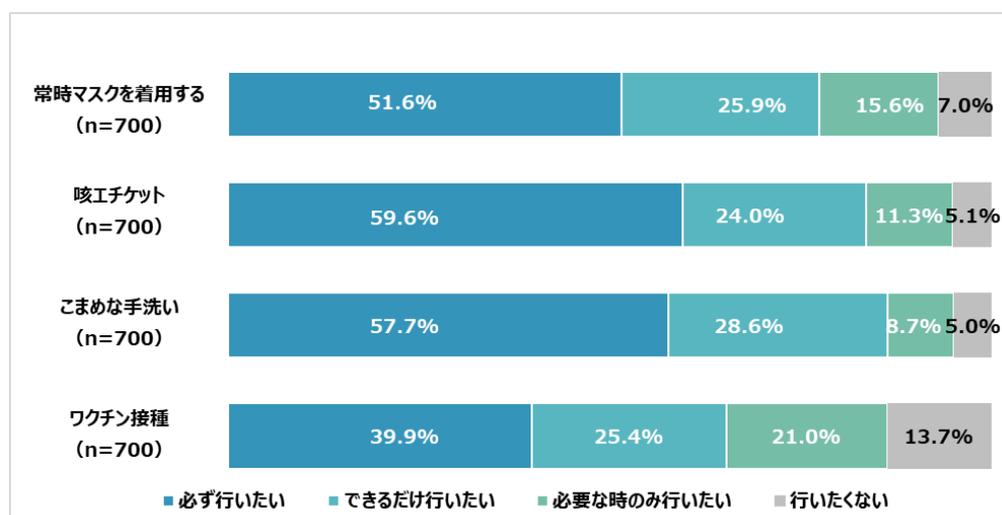
「マスクを着用する」、「咳エチケット」、

「こまめな手洗い」を「必ず行っている」、「できるだけ行っている」と回答した人は7割前後という結果となった。

また、「行っていない」と回答した人が最も多いのは「ワクチン接種」で32.7%となった。

【参考】2022年調査データ

Q 感染症予防対策として今後続けようと思っていること



■ 抗菌薬・抗生物質に関して

抗菌薬・抗生物質という言葉の認知度は約8割であり、ほとんどの人が「聞いたことがある」が、言葉の内容に関する正しい理解はあまり進んでいない。

(抗菌薬に関する知識)

「抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける」、「抗菌薬・抗生物質はかぜに効く」を「間違っている」と正しく回答した人の割合は、2023年はそれぞれ14.7%、23.0%であった。この結果は過去2年間ほとんど変化はない。また、「抗菌薬・抗生物質は治ったら早くやめる方がよい」を「間違っている」と正しく回答した人の割合は30.4%、「抗菌薬・抗生物質を飲むと下痢などの副作用がしばしばおきる」が正しいと回答した人は42.0%で、過去2年とほぼ変化がなかった。

抗菌薬・抗生物質が有効な病気としてインフルエンザを挙げた人は44.7%にのぼり、かぜは4割近く、新型コロナウイルス感染症は3割を超える人が有効と回答した。一般の方の抗菌薬がどのような薬なのかの理解は十分ではない。

(抗菌薬に関する経験・行動)

「家にとってある抗菌薬・抗生物質がある」と回答した人は、2023年は15.9%であり、昨年より11.5ポイント減少した。「とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」と回答した人は17.5%で昨年の25.5%より8.0ポイント減少した。新型コロナウイルス感染症のパンデミック時に医療機関への受診が控えられ薬の取りおきが増えたが、パンデミック以前の社会経済生活に戻つつある現在、以前の受療行動に戻つつあるのかもしれない。

「とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある」「他人の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある」と回答した人の割合は、15歳以下の子どもがいる人の方がいない人に比べて2倍以上高かった。

小さな子どもを持つ親では、抗菌薬の服用に関して不適切な行動が多い可能性がある。

■ 薬剤耐性、薬剤耐性菌に関して

薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知ったことがない人は6割をこえる。その認知度は4割未満であり、正しい知識を持っている人はあまり多くない。

- ・「薬剤耐性とは病気の原因となる細菌が変化して抗菌薬が効きにくくなる」と正解した人は74.2%であったにも関わらず、「薬剤耐性とは病気になった人の体質が変化して抗菌薬が効きにくくなる」のは間違いと正しく回答した人は35.5%であった。
- ・「薬剤耐性のために感染症が治りにくくなることもある」「薬剤耐性は、感染症以外のさまざまな内容にも影響を与える」をそれぞれ正しいと正解したい人は71.8%、65.3%であった。薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉を知っている人の中でも、知識は十分でない部分がある。

■ 感染対策

・発熱など体調不良の時に学校や職場を「休む」という回答は今回56.6%だった。2022年の60.0%よりは減少している。一方で「休みたくても休めない」人は年々減少し、その割合は2023年は2019年の約半分まで減少した。新型コロナウイルス感染症対策で、職場や学校の感染対策の体制が整ってきていることが推測されるが、一般の方の意識はやや下がってきているのかもしれない。20代は「休まない」と答えた割合が33%と他の世代よりも高く、「休みたいが休めない」も合わせると結局「休まない」人は54.0%であった。特に若い世代に感染対策の重要性を再認識してもらう必要があると考える。

・現在、感染症予防対策として「行なっていること」を尋ねたところ、咳エチケットやこまめな手洗いについては70%を超えていた。一方で、昨年の調査で「感染症予防策として今後続けようと思っていること」の中で咳エチケットやこまめな手洗いは80%を超える人が挙げていたことを勘案すると、感染対策の意識はある程度浸透しているものの、やや下がってきていると言えるかもしれない。

■ オンライン診療

処方された薬剤の説明にあたり、オンラインの方が周りを気にすることなく、質問などしやすいのではないかと、その結果薬剤の知識が高まるのではないかと意図で今回の調査項目に追加した。しかし、オンライン診療やオンライン服薬指導を利用したことがある人は数%にとどまり、オンラインの利用でコミュニケーションが取りやすくなり、薬剤の知識や適正使用の意識が高まるころまではまだまだ課題が多くあると思われる。

AMR対策の必要性

～抗菌薬・抗生物質は不適切な使用により、本当に必要な時に効かなくなってしまう～

抗菌薬・抗生物質は細菌が増えるのを抑えたり、殺したりする薬です。しかし、細菌もさまざまな手段を使って生き延びようとします。本来ならば効くはずの抗菌薬・抗生物質が効かなくなることを、「薬剤耐性(AMR: Antimicrobial resistance)」といいます。2019年4月29日、国連は抗菌薬が効きにくい「薬剤耐性菌」が世界的に増加し、危機的状況にあるとして各国に対策を勧告しています。

また、日本では2種類の「薬剤耐性菌」によって2017年に国内で8,000人以上が死亡したとの推計が出ており、深刻な影響が懸念されています。

日本では外来での抗菌薬・抗生物質使用が9割以上を占めており、外来診療における抗菌薬・抗生物質の適正使用を推進することが不可欠といえます。

* <https://news.un.org/en/story/2019/04/1037471>
No Time to Wait: Securing the future from drug-resistant infections
Report to the Secretary-General of the United Nations April 2019